

農作業コツのコツ

【第11号】
平成30年6月30日
福光農業改良協議会
砺波農林振興センター南砺班
福光農業協同組合 営農部

水稻の生育は全般に順調で、ほぼ平年並みに推移しています。

- ① 幼穂形成期から出穂期まで「飽水管理」を行い、水不足による葉色の低下を防ぎましょう。
- ② カメムシが非常に多く発生しているため、畦畔等の草刈りを徹底しましょう。
- ③ 大豆の培土は確実に2回行い、生育量の確保と雑草抑制を図りましょう。

＜水稻の生育状況＞

(6/26: 福光農業改良協議会 良質米実証田生育調査結果)

品種名	田植日		草丈 (cm)		株当たり茎数(本)		葉齢 (葉)		葉色		幼穂形成期(予想)	
	H30	平年	H30	平年	H30	平年	H30	平年	H30	平年	H30	平年
とみちから	5/2	5/4	60.9	58.2	27.3	24.9	11.2	11.1	4.2	4.3	6/25	6/25
五百万石	5/3	5/4	51.2	52.6	21.5	20.3	11.8	11.7	4.3	4.3	(6/29)	6/27
コシヒカリ	5/13	5/13	48.2	50.0	26.0	23.2	10.4	10.5	4.2	4.3	—	7/11
てんこもり	5/8	5/8	39.2	44.0	34.4	35.9	11.5	11.1	4.2	4.2	—	7/13

(調査筆数: とみちから3筆 五百万石4筆 コシヒカリ5筆 てんこもり4筆)

1 「とみちから」の穂肥施用

① 肥効調節（一発）体系（基肥：「LPs とみちから専用」）の場合

- ・原則、穂肥は施用しない。
- ・ただし、幼穂形成期（6月25日頃）以降、葉色4.2を下回ったら、すぐに追肥3号を10a当たり10kg施用しましょう。

② 分施肥体系（基肥：磷加安15号）の場合

使用する肥料	追肥3号			
	回数	1回目	2回目	3回目
施用時期		幼穂長1mm時(6/23頃)	1回目の7日後	2回目の7~10日後
10a当たり施用量		13kg	15kg	15kg

2 「五百万石」の穂肥施用

① 肥効調節（一発）体系（基肥：LPs五百万石専用）の場合

- ・原則、穂肥は施用しない。

② 分施肥体系（基肥：磷加安15号）の場合

使用する肥料	追肥3号		
	回数	1回目 (7月4日頃)	2回目
施用時期		幼穂長10mm時 葉色: 3.8~4.0	1回目の7日後
10a当たり施用量		13kg	15kg

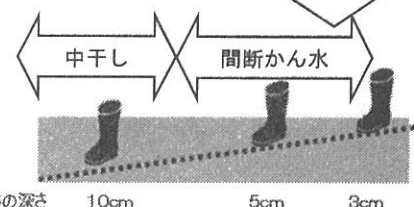
※圃場によって幼穂長に差があるので、必ず幼穂長を確認してから追肥しましょう。

※葉色が濃い、茎数が多い、大豆跡田などは、施用時期を遅らせ、施肥量を減らすようにしましょう。

3 直播の管理

- ・中干しとその後の間断かん水により、幼穂形成期頃までに足跡の深さが3cm程度となるようにしましょう。
- ・乾きすぎの圃場が散見されますので、適度な保水を心がけましょう。

「中干し」と「間断かん水」により、幼穂形成期頃までに足跡の深さが3cm程度となるようにする



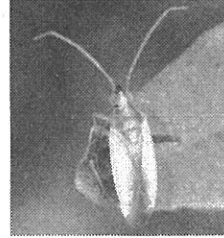
刈り取った草は、用排水路に流さないように注意しましょう。

安全・安心な米づくりのため、生産履歴記帳とGAPは確実に実施しましょう！

4 草刈りの徹底～カメムシ類が大量発生中～

<カメムシ発生状況>

	H30	平年
発生地点率	100%	76.7%
平均頭数	9.6頭	5.8頭



左図：アカヒゲホソミドカスミカメ
右図：アカシカスミカメ

6/26 雑草地におけるカメムシ類生息密度調査（調査地点数：11）

管内で斑点米カメムシ類が非常に多く発生しております。

カメムシ類の発生を抑制し、斑点米の発生を低減するために、草刈り運動期間中の草刈りを徹底しましょう。

一斉草刈り日 7月7日(土) 8日(日) (7月1日(日)～10日(火) 草刈り運動期間)

5 病害虫防除

- ・葉いもち、紋枯病の病斑がみられたら、下表に準じ防除しましょう。
- ・紋枯病について、前年発生が多かったほ場、早生品種及び「てんこもり」のほ場では特に注意しましょう。（詳しくは、「営農とくらし」37～39 ページ参照）

病害虫	防除薬剤名	防除時期	使用時期	使用回数	10a 当たり散布量
葉いもち	ブラシン粉剤 DL	病斑を見つけたら直ちに	収穫7日前まで	2回以内	3～4kg
	ブラシフロアブル				60～150ℓ (1,000倍)
紋枯病	バリダシン粉剤 DL	穂ばらみ期 (幼穂形成期から10日後頃)	収穫14日前まで	5回以内	4kg
	バリダシン液剤 5				60～150ℓ (1,000倍)

6 大豆の管理

(1) 培土作業の実施

- ・必ず培土を2回行いましょう。
- (5月30日播種の場合、2回目の培土の時期は、本葉4～5葉期(7月4日頃)です。)

(2) 雑草防除

- ・培土後、雑草が残った場合、全面散布が可能な除草剤を使う時は、早めに散布しましょう。

対象雑草	除草剤名	使用時期	使用回数	10a 当たり散布量
イネ科雑草	ポルトフロアブル	イネ科雑草3～10葉期 ただし、収穫30日前まで	1回	薬液 200～300ml ／希釈水量 100ℓ
畑地1年雑草 (イネ科を除く)	大豆バサグラン液剤	大豆2葉期～開花前 ただし、収穫45日前まで ※高温が続く場合や湿害等で生育不良の場合は使用を避ける。	1回	薬液 100～150ml ／希釈水量 100ℓ